

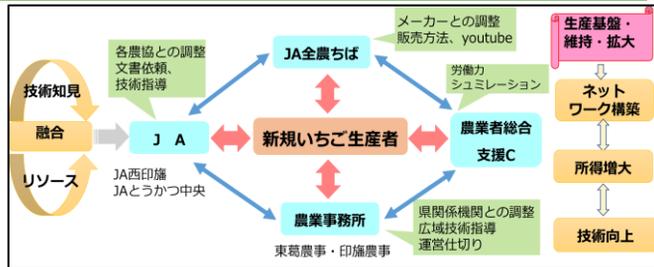
概要

- 東葛飾・北総地域では、都心からもアクセスがよく、消費者にも近い立地を生かして、直売や観光摘み取り用のいちご栽培に**新たに取り組む、新規就農者や後継者が急増**していた。
- その一方で、当地域でのいちごの組織的な活動を行う機会は少なく、新規にいちご栽培に取り組む生産者が**点で孤立し、知識・技術を習得しにくい状況**にあった。
- そこで、東葛飾・北総地域で新規にいちご栽培に取り組む生産者を対象として「**東葛飾・北総地域新規いちご生産者研修会**」を開催した。
- その結果、新規いちご生産者の**知識や技術習得、地域の垣根を越えたネットワークの構築**が進んだ。新たな学習グループ「**アーバンいちご研究会**」が誕生するなど、新規いちご生産者の育成に繋がった。

具体的な成果

1 JA等関係機関と連携した支援体制の構築

- JA西印旛、JAとうかつ中央、JA全農ちば、印旛農業事務所、東葛飾農業事務所と**機関の垣根を越えた支援体制を構築**し、「東葛飾・北総地域新規いちご生産者研修会」を立ち上げた。
- 各機関の**得意分野を持ち寄り、役割分担を明確化**させながら、総合的な支援を実施した。



2 知識・技術の習得と地域の垣根を越えたネットワークの構築

- 経験が浅い生産者でも**徐々にステップアップ**や**仲間作り**ができるよう内容を心掛け、生産者が研修会に主体的に参加できるよう、**座談会**や**グループワーク**を組み合わせたカリキュラムを実施した。
- 生産者同士の**相互研鑽**が進み、技術を高め合う機運が醸成した。**知識と技術習得**が進み、**経営改善**に繋がった (R5⇒R6)。
 - ① 経営規模拡大: 0戸⇒7戸、② 新規天敵導入: 0戸⇒4戸
 - ③ 環境制御システム導入: 0戸⇒5戸、④ 観光型への転換: 0戸⇒1戸、⑤ 500万円/10a以上の販売金額達成農家: **3戸⇒10戸**
- **仲間づくり**を意識した機会を創出したことにより、**ライバル**だけでなく、**互いを助け合い、切磋琢磨**しながら知識を得ようとする意識が醸成し、**地域の垣根を越えたネットワーク**が構築した。

支援体制のスキーム



3 新たな学習グループの誕生

- 生産者の意欲を引き出し、ネットワークの構築を進めることで、**生産者自らが発起人**となった、**新たな学習グループ**「**アーバンいちご研究会**」が誕生した。



アーバンいちご研究会の誕生

普及指導員の活動

- | | |
|----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>令和5年4月
令和5年6月
令和5年6月~
12月</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■ JA等関係機関と連携し新規いちご生産者の育成に向けた支援体制を構築する。 ■ 「東葛飾・北総地域新規いちご生産者研修会」の立ち上げ。 ■ 「いちごの基本的な栽培知識を学ぶ、仲間と出会う」をテーマに研修会を運営。
⇒普及指導員としてのスペシャリスト機能とコーディネート機能を活かし、技術習得を進めるとともに、仲間づくりの場を創出。 |
| <p>令和6年1月~
12月</p> | <ul style="list-style-type: none"> ■ 「生産者同士の交流を深める、互いの圃場を知る」をテーマに研修会を運営。
⇒生産者の自発性と主体性を引き出し、学習グループの立ち上げを支援。 |

普及指導員だからできたこと

- ・ 関係機関と連携を密に行い、**同一目的と方針**で支援を実施したことで、支援体制の構築や役割分担、合意形成など、運営を円滑に進められた。
- ・ 孤立しがちな**新規就農者を面で捉え**、各地域に点在する新規いちご生産者同士を**繋げる機会**を創出したことにより、**生産者間のネットワークが構築**され、**地域のいちご栽培の活性化**にも繋がった。

千葉県

東葛飾・北総地域新規いちご生産者の飛躍を目指して —学び合う！高め合う！地域を越えたいちごの輪！—

活動期間：令和5年度～継続中

1. 取組の背景

都心からアクセスが良く消費者にも近い東葛飾・北総地域では、その立地を生かし、直売や観光いちご狩り園を主体としたいちご栽培が行われている。

近年、いちごを営農品目とする農外からの新規就農者が急増しているが、基本的ないちごの生理生態を理解しないまま栽培を行う事例が多く見受けられていた。当地域は、いちご生産者の組織的な活動や交流を行う機会が少なく、新規にいちご栽培を始めた若手生産者が点で孤立し、知識や技術を得にくい状況にあった。また、膨大な初期投資、技術習得等の面で、経営が軌道に乗るまでに時間を要するケースも散見されていた。

そこで、東葛飾地域及び北総地域で新規にいちご栽培に取り組む若手生産者を対象に、栽培技術の習得と地域の垣根を越えたネットワーク構築を促すため、「東葛・北総地域新規いちご生産者研修会」を開催し、次代の都市農業発展の核となる新規いちご生産者の育成に取り組んだ。

2. 活動内容（詳細）

(1) JA等関係機関と連携した支援体制の構築

新規にいちご栽培に取り組む若手生産者の栽培技術向上と、地域を越えた生産者間のネットワーク構築を促すために、R5年4月からJA西印旛、JAとうかつ中央、JA全農ちば、印旛農業事務所と支援体制の構築に向けた協議を行い、R5年6月に「東葛飾・北総地域新規いちご生産者研修会」を立ち上げた。また、関係機関と同一方針で運営と支援を行えるよう研修会の開催の度に協議を行い、各機関の立場を生かした得意分野を持ちより、新規いちご生産者の育成支援を行った（図1）。

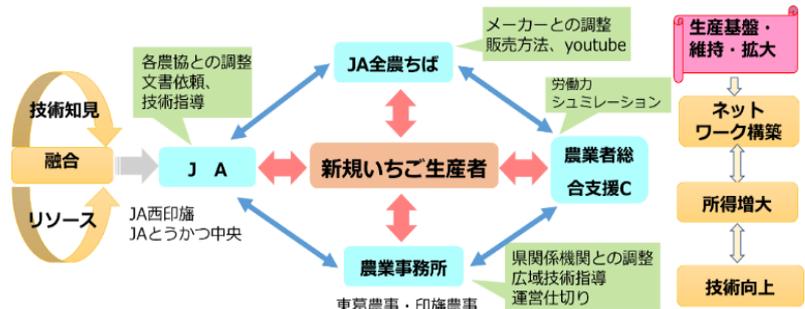


図1 支援体制のスキーム

(2) 東葛・北総地域新規いちご生産者研修会の開催

ア 新規いちご生産者の掘り起こしと課題把握

関係機関と連携した、新規いちご生産者の掘り起こしと、リストアップにより地域の対象となる潜在人数と経営状況を把握した。研修会の対象者は、栽培を開始して5年前後の生産者とし、初年度は24名、2年度は新たに7名が参加し、計31名が本研修会の対象となった。

また、対象者への個別巡回による聞き取りやアンケート調査の実施によ

り、個別課題の把握と研修内容に係る要望の抽出を行った。聞き取りを行った内容については関係機関と情報共有し、支援方針や研修会の内容に反映させた。

イ 「主体的で学びやすい」研修会の実施

研修会は3か年計画とし、対象となる生産者を個別巡回し、開催の趣旨と目的を説明し参加を促した。初年度（R5）は、『いちごの基本的な栽培技術と知識を学ぶ、仲間と出会う』ことをテーマに、経験が浅い生産者でも徐々にステップアップや仲間作りができる内容となるよう心掛け、栽培や経営の基本となる座学やグループワーク、地域の先進農家と繋がり、技術を学ぶ視察研修等を中心に実施した（月1回、計7回）。

2年度（R6）は、『生産者同士の交流を深める、互いの圃場を知る』ことをテーマに、生産者が主役となり、自身の経営概要を説明する現地研修（写真1）や労働力補完方法について学ぶ研修、互いの経営方針や研修内容について協議し合う座談会を中心に実施した（月1回、計6回）。併せて、研修内容の振り返りや欠席者へのフォローアップに動画の活用を行った。



写真1 互いの経営状況を共有

ウ 新規いちご生産者のネットワークづくり

研修会の度に座談会やグループワークを行い、普及指導員や営農指導員が討議に入り、生産者から主体的な意見・提案ができるよう工夫を行った。優良栽培情報の情報交換や各自が抱える課題や悩みの共有、販売目標の設定や達成状況の共有、研修内容の検討や仲間同士でのグループ化について協議を行うなど、ネットワークづくりを意識した機会を創出した。

エ SNSを活用した情報発信と参加促進

研修会やイベント等の参加促進をスムーズに行うことや、生産者同士で気軽に情報交換を行えるよう、SNSを活用したグループチャットの開設を促した。JA西印旛、JAとうかつ中央の協力のもと、チャット上で研修会の通知や出欠のとりまとめを行うことで、月1回のハイペースでの研修会の開催が実現した。SNSを活用したネットワークは、時間や場所を選ばないことから、気軽に発信を行いやすく、生産者同士のタイムリーな栽培情報の交換の場として活躍している。

3. 具体的な成果（詳細）

(1) 知識・技術の習得と地域の垣根を越えたネットワーク構築

同世代の生産者が研修会に参加することで、相互研鑽が進んだ。経営規模の拡大を7戸、直売型から観光型への転換を1戸、環境制御システムの導入を5戸、アザミウマ対策の天敵導入を4戸、500万円/10a以上の販売金額達成経営体が10戸（うち1000万/10a以上の販売金額：4戸）になるなど、知識と技術習得が進み経営改善が図れた。また、生産者同士で互いの圃場を行き来する機会や比較的栽培経験のある生産者が経験の浅い生産者の相談相手となり、技術を教える機会も多く見られるようになった。互

いを助け合い、切磋琢磨しながら知識を得ようとする自発的な意欲が高まり、地域の垣根を越えたネットワークの構築が進んだ。

(2) 「アーバンいちご研究会」の誕生

生産者の意欲を引き出し、ネットワークの構築を進めることで「この研修会で出会った仲間同士でグループを作りたい」という意思が生まれ、生産者自らが発起人となり、新たな学習グループ「アーバンいちご研究会」が誕生し、研修対象者全員（31名）が参加した。気軽に交流と情報交換ができるよう、規約や役職のないフラットな繋がりを意識し、生産者の主体性を活かしたグループ活動に繋がっている。

(3) グループ化が起こした新たな動き「農福連携」

新規いちご生産者の経営安定の妨げになっている課題の一つとして、労働力不足が上げられる。そこで企業と連携した農福連携について制度説明と先進農家への視察研修を実施し、新たな人材を活用した労働力確保の提案を行った（写真2）。農福連携の取組は労働力の確保だけではなく、障害者と共に働くことで、作業上の課題が明確となり、その課題を改善していくことで、農業経営の発展に繋がると考えられる。今後、作業条件や仲間同士での労働力のシェアリングなど、企業と生産者の相互条件を協議し、新規いちご生産者の経営に合った農福連携の活用方法を検討していく。



写真2 農福連携を学ぶ

4. 農家等からの評価・コメント（アーバンいちご研究会 T氏）

座学や視察、実習や座談会など様々な研修会を通じて、栽培技術の向上や生産安定、販売金額の向上に繋がった。知識も人との繋がりもでき、沢山得られることがある。悩み相談や情報交換の場としても有意義で、今後も積極的に研修会に参加し、仲間と切磋琢磨しながら地域を盛り上げていきたい。

5. 普及指導員のコメント

（東葛飾農業事務所改良普及課 普及指導員 武内理香）

生産者、関係機関、農業事務所が三位一体となって研修会を開催してきたことで、新規いちご生産者のネットワークが構築され、地域のいちご栽培の活性化に繋がった。対象者の熱量も大きく、様々なアイデアを投げかけてくれるため、やりがいもあり、普及指導員としての活動の幅が広がった。

6. 現状・今後の展開等

新規いちご生産者の育成を進めていくためには、自発的・主体的な活動が必要になってくる。「アーバンいちご研究会」の活動をさらに発展させるため、知識の習得と技術向上を進めるとともに、品評会やグループロゴの作成、PR活動など販売面の強化も図っていく。地域の垣根を越えて、生産者が主体となったグループ活動の活性化を進め、次代の都市農業発展の核となる農業経営者となるよう支援をしていく。